

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		<p>昨年、ユニットの日々の様子の新聞を作成したいと考えていたが、取組めなかった。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		<p>近隣の方がもっと気軽に立ち寄れる場所、環境を築きたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>地域の祭りや行事にも、もっと参加していきたい。(町内運動会など)</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>認知症サポーター養成講座や、介護教室など介護相談など地域の方にお役に立てるホームへしてゆきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>今後も、全職員に意義を理解し時間をかけて取り組んでゆきたい。</p>
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>参加できなかった家族に対しても日々の様子をお伝えするように努めている。また、日々様子を写した写真をスライドにして、見ていただき家族の方もここでの様子がわかりやすいと、大変喜ばれている。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>今後も継続してゆきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>今後も、全職員に勉強会や、研修会など時間をかけて取り組んでゆきたい。必要に応じて後見人制度の活用も考えてゆきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>職員本人は気づかない言葉で、入居者を傷つけてしまわないように、今後も職員同士注意を払う。また、今後も職員間で注意を出来るような環境を継続してゆきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>今後も継続してゆきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	機会は設けてはいないが、日々接する中で不満などは無いか聞いている。また、それについて検討し改善するように努めている。		利用者自身、不満等を言い出せないような環境にならないように努める。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時に状況報告している。面会の少ないご家族には、状況を電話で報告している。。おこずかい帳は、ご家族に提示しサインを頂いている、来られない家族には郵送している。		今後も、継続してゆく。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が直接言って頂けるような環境作りと、公的機関がある事の説明をしている。また、運営推進会議や、苦情BOXの設置もしている。		ご家族が気軽に言って頂けるような環境作りと、苦情があった際迅速な対応をしてゆきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎朝のミーティングや、月1度のカンファレンス、リーダー会議などを行い聴く機会を設けている。		日常において、話しやすい環境と、それに対して誠意ある対応をとってゆく。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事や受診日は職員の数も多く配置している。また、超過勤務体制をすることもある。		職員に負担がかからないように配慮してゆく、併せて、地域のボランティアの方の協力を得て行きたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの関係、信頼関係が重要な環境と考えている為、異動はない。また、離職者も少なく安定している。		今後も継続してゆきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内では定期的に、勉強会を行ない、日頃の介助においての役立つ情報や介護技術についての知識を深めている。また、社外の研修会、講演会へも自発的に参加し介護職員としての自覚を保っている。会社も参加しやすいように参加費や、交通費などの支給もしてくれている。	個人で受けた研修や講義を他職員へ伝達できる機会をもっと設けるべき。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者連絡会議や区での会議、研修会などで交流・情報交換をしている。	他のグループホームとの職員交流などをもっと積極的に行なってゆきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	他のユニットの職員、併設のデイサービスの職員とともに楽しい時間を過ごす場が年に何度か用意されている。月に一度のカンファレンスにおいて、悩みや思いなどを職員間で分かち合っている。	長期休暇や、有給休暇など会社としてリフレッシュできる環境を提供してゆきたい。
22	向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	実績、勤務状況を把握し向上心を持って働けるように、言葉掛けや、面談を行い、適した研修に参加を促し向上心を持ってもらう。	個人で目標を掲げ向上心を持って努めてもらいたい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご本人様とお会いし、認知症状、身体・全身状態、生活状況を確認し、家族・関係者からも話をお聞きしている。職員間で話し合い情報を共有しどのように受け止め、信頼関係を構築してゆくか検討し努力している。	こうして、出会えたことに感謝をし、尊厳を大切に心でのケアをしてゆきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ここでの生活に不安や心配されることへ傾聴、対応。また、要望や意見を取り入れ、安心してご利用していただけるように努めている。	入居者様はもちろんのこと、ご家族様も安心して、このホームなら思っただけの環境、職員となるように今後も努めてゆきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学・入居相談を受けた際、必要としているサービスがあれば関係機関へ繋げ、介護保険制度を理解されておられない方へは、その都度、説明し居宅介護支援事業所や、区役所への橋渡しをしている。		今後も、本人、家族が満足できるような対応をしてゆきたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前の見学や、待機者の場合、併設のデイサービスをご利用して頂きながら、環境や、職員との顔なじみの関係へとなるようにしている。		入居前にご自宅へ訪問したりと、顔なじみの関係を築けるようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	食事を一緒に食べたり、作ったり、下膳や始末を一緒にすることで、一方的な介護にならないように、一人ひとりに合った、言葉掛け対応をしている。		今後も出来ることへの支援、共に喜び悲しみ1日でも長く共に過ごせるように生活している。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られたご家族に入居者様の様子をお伝えする。また、ご家族からの要望をお聞きし入居者様が過ごしやすい環境を作り上げている。		ご家族様にもクリスマス会にピアノを弾いてくださったり、ボランティアとして、創作活動をして下さったりして頂いている。今後もこのような関係を大切にしてゆきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	これまでの、関係などをお聞きし私たちに出来ることを支援している。この入居を機会に、それまで疎遠だった家族も面会に来られたりしている。面会時においてラウンジや和室などお茶を飲みながら、ゆったりとした時間を共有して頂いてる。		今後も継続してゆきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	利用者の希望に沿って外出の送迎を行なっている。知人、友人との電話の取り次ぎをしたり、来訪された方と居心地の良い雰囲気作りをしている。		家族として、この方とは会わせて欲しくないという方がおられる。今後も、家族と連絡を密にし対応してゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士、互いに支えあいながら生活しているが、トラブルが発生した場合は職員が自然な感じで介入し未然に防ぐように努めている。		食事時の席の配慮などしている、また、トラブルの報告、防止策を検討し情報交換をしている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了したから関係も終了したとは考えていない。退去後も訪問してくれたり、役に立てることがあればとお話している。年賀状を頂いたり、入院先へお見舞いに行ったりと、関係は続いている。		今後も、お役に立てることや、相談事など関係を大切にしたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴を把握し、本人の過ごしやすい環境を整え、これまでの生活スタイルを尊重し対応してゆきたい。		今後も本人からの希望、意向を聞き、お話の出来ない入居者様には、家族からお話を伺いながら環境を整えてゆく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族よりこれまでの生活歴や、馴染みのこと、辛かった思い出などをお聞きし、それらを踏まえ、ここでの生活が、今まで暮らしてきた生活環境に近く出来るように努めている。		今後も、今までの暮らししてきた沢山の事教えて頂き、ここでの生活の糧にしてゆきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	変化があった際は、職員全員がすぐに情報を共有し対応している。(申し送りノートも使用)		一人ひとりの心身状態、有する力を各職員が十分に把握し支援してゆきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居前の情報が、実際入居すると違いが応じてくる、その都度、家族、職員、計画作成者間で情報交換をしケアプランを修正している。また、カンファレンスにて状態の把握、ケアの検討などをし、それをもとにケアプランを作成している。		今後も本人、家族に解かりやすいケアプランを作成してゆく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的には、プランの日を設け実施、見直しを行なっているが、入院や身体、精神状況に応じ臨機応変に対応している。		今後も継続してゆきたい。また、急性の場合には、プランに捉われず、すぐに対応している。家族にも説明し、その後プランに盛り込んでいる。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	健康状態はバイタル表へ、日常生活は生活記録へ、病院等へ行った際は受診記録表へと記載し家族へも自由に閲覧できるようにしている。又職員間は申し送りノートを活用し漏れのない様に取り組んでいる。		今後も継続するとともに、ケアプランへも反映してゆく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設のデイサービスへ遊びに行ったり、デイサービスのお風呂(檜)へ入ったりしている。		今後も継続してゆきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近くの高校のボランティアサークルによる定期的なボランティア(週2回)、中学生の体験実習や、学校祭、合唱コンクールに招かれるなど地域の皆さんに協力、支援を頂いている。		消防の方には年に2回避難訓練にて協力を頂いている。警察に関しては日常的に何かをすることは無いが、必要に応じて協力をお願いしたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問マッサージを活用している。また、歯科治療にあたっては、主治医と歯科医師が連絡を取り対応してくれている。		今後も必要に応じ支援してゆきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に毎回参加をして頂いている。他にも、区単位での計画作成者の研修会の手助けや相談等、協力を頂いている。		今後も引き続き、協働してゆきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけの病院の看護師や訪問看護師、気軽に相談が出来る。日常の健康管理や医療活用の支援もおこなっている。		認知症により病状を十分に表現、説明が出来ない事があるが、そこを見極めて対応してゆきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	内科の主治医とは別に、認知症の専門医に診断、治療を受けている。		今後も継続してゆきたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設のデイサービスの看護師が夕方巡回してくれている、また自宅も非常に近く、夜間においても何か異常があればすぐに、駆けつけてくれる。入居者さんも非常に信頼し、健康管理の支援体制はなされている。		今後も継続してゆきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時において治療方針・期間など家族と同席させて頂き、その中で入居者様が受ける環境の変化によるダメージについて理解して頂き、早期退院を考えて頂き、通院でフォローできる場合はそのように対応して頂いている。		協力病院の先生方もグループホームの事を理解して頂いており、協力的である。今後も、協働してゆきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居の際に指針は説明していますが、その場になったときにも再度、医師を含めての説明をさせて頂いております。		常時医療が必要となった場合は、グループホームでの対応は困難である事は説明している。また、困難となった場合においては今後、安心して生活の出来る場所を見つけられるように支援している。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医や、協力病院との連携体制は出来ており、職員も研修を受けたりとしている。		終末期ケアにおいて、職員での準備はまだ不十分といえる為、今後勉強会や研修、職員間での話し合いを進めてゆきたい。入居者様やご家族の方もこのホームで職員の皆さんの中ですべてとってくださっている方も居るので、叶えたいと思っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	情報を提供し、環境の変化に対応できるように行なっている。ペットの位置やお気に入りの物や写真、好きな話題などダメージを最小限になるように努めている。		住み替える事がなく、共に生活をしてゆきたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ひとり一人の性格を把握し、その方に合った声掛けをしている。プライバシーにおいても配慮した支援がされている。個人情報においても受診以外ファイルは持ち出さない、勉強会で使用した書類はシュレッターで処理している。		プライバシーの確保を徹底してゆきたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の思いを大切に、やりたい事、行きたい所、会いたい人、希望を叶えてあげられるよう、そんな生活が出来るように支援している。		表出や自己決定がなかなか出来ない方には、私達職員が注目し意識して関ってゆく。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ひとり一人の思いを大切に要望に応えられるようにしている。職員側の都合ではなく利用者本位と考えている。		介護度によってはなかなか外出が難しいのが現状であるが、家族や、併設のデイサービスの職員や、もう1つのユニットと協力して実行してゆきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご自分の好きな服を選び着ていただいている、月に1度美容師の方が来ていただいているが、パーマなど希望時にはお連れしている。また、月に1度資生堂のメイクボランティアの方が来てくださっている。		毎日お化粧品身だしなみにも気をつけてゆきたい。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	もやしのひげ取りや、味見など負担にならない程度で共に支度をしている、たまには、職員が教えてもらったり、漬物を漬けたりしている。後片付けも協力してくれている。外食や出前も楽しみの1つとなっている。		希望を聞いて献立を立てているが、まだ不十分である。食材の買い入れももっと一緒に出来ればと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒や喫煙を習慣にされている入居者様は現在いないが、正月やクリスマス、夏祭りなど行事の際、希望があれば提供している。おやつや、飲み物に関しては、医師の指示の制限がない限り希望に沿って提供している。		今後も継続してゆきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し誘導すると共に、仕種を感じ取りさりげなくトイレへ誘導している。尿意・便意が喪失している方においても、トイレで排泄できるように、誘導している。(タイミングが合いトイレにて排泄される事もしばしばある)		夜間に関しては、安眠を大切にされたい方には、オムツ、パットを使用している。今後も入居者様に応じた対応をしてゆきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴できる体制は出来ており、体調確認し本人の希望の時間に出来る限り合わせ入浴して頂いている。		今後も、入居者様の希望の時間などを大切に対応してゆきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	その方にあった生活サイクルを大切に、昼寝などされている。また、夜間気持ちよく休息できるように、日中の活動や日に当たるなどしている。		出来る限り、薬に頼らずにしてゆきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意な事、出来る事を喜びのある生活へ繋ぎあわせている。外でなっている栗を拾い、栗ご飯や、羊羹を作ったりと楽しまれている。		張り合いのある、そんな日々が多く過ごせるように支援してゆきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居時に家族と金銭に関しては、取り決めをしている。ご自分で少額ではあるが管理し、外出の際使用されている方もおられる。		自分でお金を持っているという、安心感もあり今後、その方や家族と相談した上で、私達の出来る事をさせて頂く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬期間は買い物外出を実施、夏季は散歩や栗林へ森林浴、ドライブや由仁ガーデンへ全員で出かけたりもしている。		外に出る事で、季節を肌で感じて頂いている。また、外に出る事で転倒などの危険も生じるが、家族へはその危険性も説明している。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	レンタカーを借り長距離ドライブをしたり、自宅へ戻りたい方へは、家族と相談しご自宅へ出かけたりもしている。他にデパートへの買い物など、支援している。		今後も、個別に対応できるところは、してゆきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	年賀状のやり取りや、電話も自由に掛ける事が出来る。		今度も継続してゆきたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ラウンジや和室などゆっくりと居心地の良い環境で過ごす事ができている。		毎月50名以上の方が面会の来られている。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設立し、取り組んでいる。また、研修にも参加し全職員が身体拘束しないように把握している。身体拘束に限らず、言葉によるものや、薬による拘束に関しても取り組んでいる。		転倒の危険性があるため、歩かせないなどという行為はせずに、今ある機能を活かし生活して頂いている。また、入院時においても、拘束を出来る限りしないように依頼すると共に、必要時は病院に泊まったりもしている。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関は鍵を掛けず、鈴を付け出入りが解かるようにしており、出入りは自由になっている。夜間に関しては外部からの侵入者等の危険もあるために、施錠している。居室に関しては鍵を使用している方もいるが、その方のそれまでの、生活スタイルを重視している為施錠の方はして頂いている。夜間の安全確認に関しては、職員は開閉行える為、家族の承諾を得ている。		今後も継続してゆきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜通して利用者様の所在確認とプライバシーの確保に努めている。		今後も継続してゆきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	自己管理が出来ている方に関しては、お渡ししているが(危険なものに関して:針・ハサミ・剃刀など)管理が必要と判断した場合は保管させて頂いている。使用される場合は、安全面を確保した上で、ご使用していただいている。		今後も継続してゆく共に、工夫を加える事で、お渡しできるようにしてゆきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ひやり・ハットを使用しその中で、原因、防止策を講じている。防災訓練、避難訓練、救命訓練の研修を受けている。		継続してゆきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署で行なわれている、救命救急の講習を受けたり、マニュアルを作成しいつでも見れる場所に掲示している。		新しく採用された方や、研修を受け年数が経った方に関しては、その都度研修を受けて頂く。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回、防災、避難訓練を実施している。また、防火管理者を設置し緊急時の連絡網や、併設のデイサービスの職員の協力体制などの体制は整えている。また、消防への自動通報システムや、セコムへの自動通報システムもある。		今後も継続してゆきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	状況に合わせた安全対応や、穏やかな生活を送って頂けるように、家族または、医師と相談している。それらをケアプランに盛り込み、職員への周知もされている。		リスクを最小限にし、抑圧感のない暮らしが送れる様にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日バイタルチェックしている。また、常に体調の観察、言動など異常があれば、看護師、医師、管理者に連絡し必要時には素早く受診をしている。家族への連絡もしている。</p>	<p>入居者は、高齢かつ、認知症であるために、異常に気づきずらく、異変が見られた場合急変するかもしれないと、いう事を十分に把握し、小さなこと、いつもと少し違う、という少しの変化も見逃さないようにしてゆきたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬は職員が管理しており、服薬時、日にち、朝・昼等の確認、名前、飲み込むまでの確認をしているが、食後に半分溶けた薬が落ちている事があるので徹底していきたい。処方薬、軟膏処置の変更は全職員が周知徹底しているも、副作用までは十分な把握は出来ていない。</p>	<p>薬の変更時事故が起きないように、職員間でしっかりと把握してゆきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>薬でなく、ヨーグルト黒酢や乳製品、運動や水分を促している。また、排便は精神的にも非常に影響を及ぼす為、十分に状況把握はしている。</p>	<p>今後も、飲み物やマッサージなど取り組んでゆきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>口腔内は細菌が多く、肺炎の原因にもなるため、食後の義歯洗浄、口腔ケア個人に合わせ介助を変え実施している。歯科医からの助言もあり、良い関係となっている。</p>	<p>今後も連絡を取り合い支援してゆく。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食べる量、栄養バランスは気をつけ食事を作っている。水分においても夏季に限らず、脱水とならないように水分量を把握している。ただ、入居者様の体重が増加気味である。</p>	<p>体重増加により、足にかかる負担や、高血圧など留意していかなければならない。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染マニュアルがあり実行している。毎日、手すりやドアノブなど塩素系のもので消毒をしている。また、布巾やまな板なども実施している。インフルエンザにおいても、入居者様職員は、全員予防接種の実施と、外出後の手洗いうがいの実施と湿度に対しても気をつけている。</p>	<p>今後も継続してゆきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>まな板、布巾の消毒と、調理者の確実な手洗いの実施。食品に対しても新鮮なものと、出来る限り、地産地消に心がけている。</p>		<p>食材に関しては、安心・安全を努めている。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前には季節の花を飾り、親しみやすい環境を整え、冬にはロードヒーティングになっており歩行しやすくなっている。各ユニットの玄関にはわざと段差を設け玄関という認識をしてもらっている。</p>		<p>段差を設けたことで転倒等の危険性は高いものの、今のところそれが原因での転倒はない。今後も、十分注意をしてゆきたい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用部分には、生け花やドライフラワー、写真などを飾り、自由に見られる本や雑誌など、安心できる居心地の良い空間を作っている。</p>		<p>不快な音や光に配慮し、居心地の良い空間を提供してゆきたい。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ラウンジや和室などゆっくりと居心地の良い環境で、編み物をしたり読書などご自分の時間を大切に使われている。</p>		<p>今後も継続してゆきたい。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅にあった馴染みの家具、思い出の写真、使い慣れた物をお持ちいただいている。</p>		<p>今後も継続してゆきたい。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>当ホームは丘の上に建ち、心地よい風が流れてくる。また、各居室には24時間換気システムや、排泄物についても処理をきちんと行い、気になる臭いがないように努めている。温度・湿度についてもこまめに数値をチェックし、快適な暮らしを提供している。居間には、エアコンの設備もある。</p>		<p>個々の入居者様により適温が違う為、出来る限り望む環境をと考えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人ひとり安全かつ、自立した生活が送れる様に、福祉器具(歩行器やシルバーカーなど)の使用、手すりや床材はクッションフロアとしている。</p>	<p>玄関はあえて段差を作っているが、重度化するにあたり危険も伴ってきているので事故には十分注意をしたい、また浴槽に入る事も大変になってきているので工夫し入りやすい方法を検討してゆきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>夜間は居室、トイレがわかる様にスポットを当てている、また、表札や暖簾、入り口のドアの色も変えてあり目印にしてある。</p>	<p>その方に状況に合わせ、今後も工夫と混乱の原因をアセスメントし対応してゆきたい。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>施設敷地内に畑を作り、共に作物を植え収穫し、調理し食卓に並ぶ楽しみを共にあじわい、味わい。花もプランターや花畑に種をまき、鮮やかな花が咲きととも、心が豊かな気持ちとなっている。</p>	<p>今後も継続してゆきたい。</p>

サービスの実績に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)